

土砂災害

■土砂災害警戒情報については、「北海道土砂災害警戒情報システム <http://www.njwa.jp/hokkaido-sabou/>」で入手することができます。

土砂災害の種類

土砂災害は大きく分けてがけ崩れ・地すべり・土石流の3種類があります

がけ崩れ・山崩れ

地面にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、弱くなった斜面が突然崩れ落ちる。日本で最も多い土砂災害で、人家の近くでも発生するため、逃げ遅れて犠牲となる人も多い。

主な前兆

- がけからの水がにごる
- 地下水やわき水が止まる
- 斜面がひび割れ、変形がある
- 小石が落ちてくる
- がけから音がする
- 異様なにおいがする

地すべり

脆弱な地質の土地に豪雨が降り、ゆるくなった斜面の一部が地下水の影響と重力で下方へ移動する現象。一度に広範囲で発生するために、住宅や道路などに大きな被害を及ぼす。

主な前兆

- 地面にひび割れができる
- 井戸や沢の水がにごる
- がけや斜面から水がふき出す
- 家やよう壁に亀裂が入る
- 家やよう壁、樹木、電柱が傾く

土石流

谷や斜面にたまった土や石、砂などが、大雨による水と一緒に一気に流れ出す。強大な威力と圧倒的なスピードで、進行方向にあるものを次々とのみ込み、壊滅させていく。

主な前兆

- 山鳴りがする
- 雨が降り続けているのに、川の水位が下がる
- 川の水がにごったり、流木が混ざったりする

危険箇所をチェックしよう

勾配が30度以上あるがけは、大雨により崩れる危険性が高い場所です。

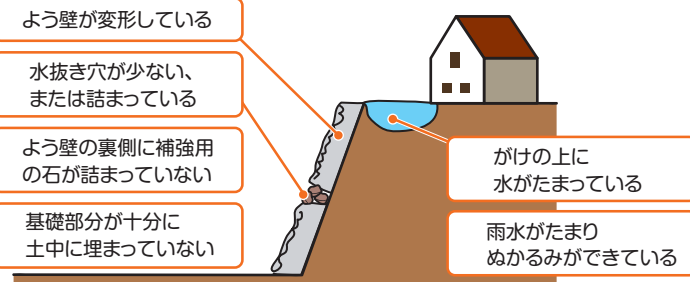
また、がけや盛り土の崩落を防ぐためのよう壁も、その構造や築年数の経過によっては崩れる危険性があります。

日ごろから家の周囲をよく見て、危険箇所がないかチェックしておきましょう。

こんな崖に注意!!



こんなよう壁に注意!!



土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況となったときに警戒を呼びかける情報で、北海道と気象庁が共同で発表しています。周囲の状況や雨の降り方にも注意し、土砂災害警戒情報等が発表されていなくても、危険を感じたら、躊躇することなく自主避難をしましょう。

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

住民等の生命又は身体に**危険が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

住民等の生命又は身体に**著しい危険が生ずる**おそれがあると認められる土地の区域

避難行動のポイント

- 1 上記の土砂災害の事象に注意し、早めの避難をする。



- 3 夜中や大雨の中など外へ避難を行うのが危険と感じる時は、自宅2階以上の山の反対側の部屋など堅固な建物の上階へ避難(垂直避難)することも考慮しましょう。



- 2 がけ崩れや土石流の起こる方向に対して横方向に避難(水平避難)する。



- 4 記録的短時間大雨情報が発表された場合は、早めに避難を行う。

- 5 土砂災害警戒情報が発表された場合は、すぐに避難を行う。

暴風雪の被害に遭わないために

暴風雪による被害は晴天から急に風雪が強まる天候の変化が起きたときに多く発生しています。

暴風雪が予想されているときは、無理をせずに家で過ごすなど外出を避けましょう。

「外出しないこと」が身の安全を守るための最善の対策です。

外出しているときに悪天が予想されていると知ったときは、今の天気が悪くても油断することなく、最新の気象情報や道路情報などを事前に十分確認しましょう。

気象情報や町のFM告知端末器の放送により「数年に一度の猛ふぶき」、「外出は控えてください」といった情報が発表されたら、厳重に警戒してください。

車で外出するときに気をつけること

- 1 携帯電話を忘れずに所持しましょう。
- 2 万が一に備えて、飲料水や非常食を用意しましょう。
- 3 やむを得ず外出をしなければならない場合には、道路状況に応じた無理のない運転を心がけましょう。
- 4 立ち往生する可能性もあるので、防寒着・長靴・手袋・スコップ・けん引ロープなどを車に用意するとともに、燃料を確認しておきましょう。
- 5 運転をしながら、地吹雪などにより身の危険を感じたら、道の駐車場・コンビニエンスストア・ガソリンスタンドなどで天候の回復を待ちましょう。
- 6 大雪や吹きだまりなどで車が立ち往生したときは、JAFなどのロードサービスや近くの人家などに必ず救助を依頼してください。
- 7 また、ハザードランプの点灯や停止表示板を置くなど、車が目立つようにしてください。
- 8 避難できる場所や近くに人家がない場合は、消防（119番）や警察（110番）に連絡して、車の中で救助に備えてください。
- 9 車が雪に埋まったときは、エンジンを切りましょう。マフラーが雪に埋まると排気ガスが車内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。車には防寒着や毛布等を備えておきエンジン停止時に暖をとるようにしてください。
- 10 車が雪に埋まったときに防寒などでやむを得ずエンジンをかけるときは、窓を開けて換気し、こまめにマフラーまわりを除雪してください。

日常から暴風雪に備える

家の中で安全に過ごすために

- 気象情報に注意して、暴風雪が予想されているときは外出を避けましょう。
- 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオ、防寒具、ポータブルストーブや灯油、非常食、飲料水などを準備しておきましょう。
- FF式暖房機などを使用している場合は、給排気口付近が雪でふさがれないように注意しましょう。



ポータブルストーブ



非常食・飲料水



懐中電灯

やむを得ず車で外出する時には

天気の急変などにより車が立ち往生することを想定して、防寒着、長靴、手袋、スコップ、けん引ロープなどを車に用意するとともに、十分に燃料があることを確認しましょう。



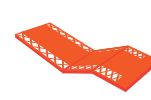
防寒着



長靴



スコップ



スノーヘルパー

除雪のこんなときが危険

雪に関する死亡事故の9割以上は除雪に関係した事故によるものです。

除雪による事故を防ぐチェックポイント

雪かきをする

- 準備運動・整理運動をしっかりと
- 滑りにくい防寒靴も含めて服装は万全に
- 腕の力だけに頼るのではなく体全体を使う
- 雪を投げ出すときは体をひねりすぎない
- もしものために2人以上で作業
- 屋根からの落雪など周辺状況を十分把握

除雪機を使う

- 除雪機を使うときは周りの人に注意
- 雪詰まりはエンジンを停止してから雪かき棒で
- 後進には十分注意
- エンジンをかけたまま離れない

屋根の雪下ろしをする

- 低い屋根の雪下ろしでも油断は禁物
- ヘルメット、命綱、安全帯など装備は万全に
- アンカーをしっかり固定し命綱を忘れずに
- はしごは横ずれしないよう真っ直ぐに立て支えてもらう
- 屋根の下に人がいないことを確認
- 屋根に10cm程度の雪を残し屋根材を露出させない